

元

画数 4
 筆順 一ニテ元
 オン ゲン・ガン
 フン もと

成り立ち



「上」という字のふりかたちの「二」と、「人」のかたちをあらわした「儿」とを組み合わせてつくった字です。「人」のからだの「一ばん上」にあるもの」といういみの字で、「あたま」のことをあらわした字です。

「元首」「元老」などはこのいみです。
 「元日」は「一年の「あたま」の日」ということで、「一ばんはじめ」といういみにもなります。
 「あたま」は人のはたらきの「元」ですから、「もと」というつかいかたも生まれました。

「上」の古い字には「𠂔」「𠂕」などもある。ゲンは漢音、ガンは呉音である。」

使い方

▽今年も元日から「いつも明るく「元氣」に」ということばをあたまにわすれないでせいかつしていこうとおもいます。

熟語例

- ▽元日（「あたまの日」ということで、一年のあたまの日の「一月一日」のことをいいます。）
- ▽元氣（すべてのこういひの元になる氣力」といういみのことばで、「つよい氣力」のことをいいます。「やる氣」のことです。）
- ▽元首（「元も首も」「あたま」。国のあたまともいうべき、国王や大統領のことをいいます。国をだいひようする人）
- ▽元素（元も素も「もと」。すべてのものの「もと」になるもの。酸素、水素、炭素などがあります。）
- ▽元年（年号があらたまつた一ばんはじめの年。だいたい一年のこと。）
- ▽元祖（ものごとをはじめた人。しょうひんをはじめてうり出したいえのことによつかわれます。）
- ▽根元（根は「ねもと」。大もと。「根本」とおなじ）

言

画数 7
 筆順 一ニ言
 オン ゲン・ゴン
 フン こと・いひ

成り立ち



口から声がなみのように出てくるありさまをあらわして、「ことば」といういみや「いう」といういみをあらわしています。

ことばは、むかしはたんに「こと」といいました。また「ことのは」といひ、「言の葉」と書きました。今は「ことば」といひ、「言葉」と書きます。

「古い字形は、辛と口とより成っていて、辛と口との形声字と考えられる。つまり、辛は心を意味し、「心が口を通して出てくる」ことを表したものと考えられる。言葉は「心を表現する道具」であることをよく表した字だと思ふ。」

使い方

- ▽口でいくらよいことを言っても、行いがともなわなければ、なんにもなりません。言行一致がたいせつです。
- ▽日本ほどの大きい国で、方言のちがいはあつても、一言語の国というのは、せいかいでもめずらしいことです。

熟語例

- ▽言行（言葉と行い。「言行一致」は、言葉と行いにくいちがいがなくて一つであること。）
- ▽方言（その地方だけにつかわれている言葉。「標準語」「共通語」。例東北弁。九州弁）
- ▽言語（「言葉」のこと。また、文字をもふくめていうことがあります。例視覚言語。むかしは、漢音でゲンギョ、呉音でゴンゴ、というように統一して読みましたが、今は言を漢音で、語を呉音で読んでいます。しかし、「言語道断」というように読むならわしのある言葉もあります。）
- ▽失言（まちがったこと、または言つてはいけないことをうっかりと言うこと。また、うっかりして言った言葉）